

(別記)

令和5年度 陸前高田市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、平成23年の東日本大震災において、多大なる被害を受けた地域であり、農地に関しても津波の影響を受けたが、平成31年春に農地の復旧が完了した。

市内全水田作付面積のうち主食用米の作付は約67%、転作作物の作付は約33%であり、主食用米が中心である。転作作物の内訳としては、飼料用米、大豆、野菜の順に面積割合が高く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

当市では「たかたのゆめ」のブランド化を目指していることから、一定程度水田及び主食用米の作付面積は維持していく必要がある。一方、全国的には主食用米の需要が減少傾向にあり、需要に応じた米生産を推進していくためにも、他の作物作付に転換を促す必要もある。

また、農家の高齢化、農家戸数の減少と水田の遊休農地化が進んでおり、担い手となる農業者の確保と農地の集積を推進していく必要がある。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は東日本大震災からの復旧に合わせ基盤整備事業を行った地域も多く、基盤整備後の水田は概ね農業法人や担い手が主食用米を中心に耕作している。地域としても「たかたのゆめ」のブランド化を目指していることもあり、今後も水稻が生産の主力である。

従って転作作物に取組むにあたっては、新規需要米、特に飼料用米への取組が技術的、設備的に適当であり、現に当該地域の転作の取組として最も面積が多い。県外へ独自の販路を持つ農業者もあるが、基本的には地域の養豚業者等の需要があり、今後もJ A等を中心に実需者を確保しつつ、取組面積拡大を目指す。

また地域では酒造、しょうゆ等の醸造産業が盛んであり、それらの需要状況に合わせ加工用米の取組も推進することとする。

高収益野菜・果樹については、トマト、きゅうり、いちごなど、ある程度の規模で取組んでいるものの、現状では産地としての地位を確立できるほどの収量、作付面積ではない。今後、ほ場整備区域を中心にピーマンやズッキーニへの取組意向がある担い手があることから、これらの作物もあわせて重点的に振興作物として取組むとともに、いちごのように契約販売等の販路拡大にも取組むこととする。

また小規模の農家は主に自家用野菜等を作付けしているが、市内の産直施設での出荷販売を促し、一定の収益を得られるよう取組む。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は、東日本大震災において多大なる被害を受けた海岸に近い地域に平野部があり、これらの地域では基盤整備事業を活用しながら復旧した水田が広がっている。このうち一部地域で大豆と水稻のブロックローテーションを行っており、引き続き計画的な生産を推進する。

一方で中山間地では過疎・高齢化の影響と、当地域特有の急傾斜、小区画の水田が多いことから農地の集積を行う担い手がつきにくく、各集落で中山間直接支払事業等を活用しながら毎年管理こそしてはいるものの、作付自体がなされていない農地が多い。地力増進作物による地力の回復などの取組みとあわせ、担い手の確保及び取組作目の選定が必要であり、高収益作物やそば等による畑地化も含め検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

市内の約 530ha（不作付地を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

（１）主食用米

作付面積は生産目安を参考とするが、「たかたのゆめ」のブランド化を中心に売れる米作りの徹底によって米の主産地としての地位を確保するため、現状の維持を目指す。災害復旧や基盤整備を行った水田を中心に、集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

（２）備蓄米

生産目安と地域農家の作付意向を考慮しながら必要に応じて取組む。

（３）非主食用米

ア 飼料用米

市内の飼料用米の作付は、担い手を中心に転作作物の中では最大の取組割合であり、多収品種への取組や団地化も進んでいる。当市において飼料用米は転作作物の中心に位置づけられる。

主食用米の需要が減る中であっては、養豚業者等実需者の確保を図りつつ、ほ場整備区域を中心に新たな担い手の確保、また現取組者の更なる作付け拡大と集積、団地化、多収品種の取組を推進し、作付面積の拡大と収量の増加を図る。

イ 米粉用米

地域の需要者との契約に基づき、作付面積の拡大を図る。

ウ 新市場開拓用米

取組の予定なし。

エ WCS 用稲

地域の需要者との連携を図り、作付面積の拡大を図る。

オ 加工用米

地域の需要者との契約に基づき、作付面積の拡大を図る。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦は作付の見込みがなく、現状では取組について想定しない。

大豆について、生産・販売は一部の農家にとどまり、作付面積も少ない。JA等及び地域の需要者との契約に基づきながら、ほ場整備区域で営農する担い手を中心に大豆作付けへの誘導を行い、また団地化による作業の効率化及び排水対策等の重点技術対策を実施することで需要に応じた高品質安定生産を目指し、作付面積の拡大と収量の増加を図る。

飼料作物については、畜産農家との供給協定に基づいた作付に取組む。

（５）そば、なたね

そばについては、地域の需要者との契約を中心に、水田に限らず現行の栽培面積の拡大を目指す。また、産地交付金を活用して排水対策の取組を支援し、高品質高単収

に向けた対策を推進する。

なたねについては、作付の見込みがなく、現状では取組について想定しない。

(6) 地力増進作物

地力増進作物については、水稻の単収を見た場合でも県平均単収に大きく及ばない状態であり、東日本大震災の被災に関わらず内陸に比べ地力は高くないことから、市内全域を対象として計画する。

地力増進作物としてはえん麦、クローバー類、ソルガム等の作付けを対象とし、水田に漉き込むことにより地力向上に努め、もって大豆、高収益作物等の収量増加を目指すこととする。

(7) 高収益作物

集落の条件を生かし、平地においては施設型野菜を、中山間地域等においては、労働集約型作物の導入・拡大を推進する。「トマト」_」「きゅうり」_」「なす」_」「ピーマン」_」「いちご」_」「ほうれんそう」_」「さやいんげん」_」「かぼちゃ」_」「りんどう」_」「小ぎく」_」を重点品目とし、重点的な生産振興により、個性ある産地確立を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

6 課題解決に向けた取組及び目標

7 産地交付金の活用方法の概要

8 産地交付金の活用方法の明細

以上について、別紙のとおり

農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位：ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	258.96	0	258.90	0	258.90	0
備蓄米	0.70	0	0.70	0	0.70	0
飼料用米	58.75	0	64.50	0	64.50	0
米粉用米	0.85	0	1.00	0	1.00	0
新市場開拓用米	0.00	0	0.00	0	0.00	0
WCS用稲	5.11	0	5.55	0	5.55	0
加工用米	1.82	0	2.13	0	2.13	0
麦	0.00	0	0.00	0	0.00	0
大豆	24.73	0	25.25	0	25.25	0
飼料作物	5.77	0	7.00	0	7.00	0
・子実用とうもろこし	0.00	0	0.00	0	0.00	0
そば	0.54	0	0.55	0	0.55	0
なたね	0.00	0	0.00	0	0.00	0
地力増進作物	0.00	0	2.00	0	2.00	0
高収益作物	11.98	0.00	13.55	0.00	13.55	0.00
・野菜	10.04	0.00	11.00	0.00	11.00	0
トマト	1.52	0.00	1.60	0.00	1.60	0
きゅうり	1.02	0.00	1.10	0.00	1.10	0
なす	0.06	0.00	0.08	0.00	0.08	0
ピーマン	0.50	0.00	0.60	0.00	0.60	0
いちご	1.19	0.00	1.20	0.00	1.20	0
ほうれんそう	0.04	0.00	0.05	0.00	0.05	0
さやいんげん	0.00	0.00	0.02	0.00	0.02	0
かぼちゃ	0.30	0.00	0.35	0.00	0.35	0
上記以外の野菜	5.41	0.00	6.00	0.00	6.00	0
・花き・花木	1.69	0.00	2.00	0.00	2.00	0
小ぎく	0.37	0.00	0.40	0.00	0.40	0
りんどう	0.07	0.00	0.10	0.00	0.10	0
上記以外の花き・花木	1.25	0.00	1.50	0.00	1.50	0
・果樹	0.25	0.00	0.30	0.00	0.30	0
・その他の高収益作物	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0
雑穀	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0
その他	0.00	0.00	0.15	0.00	0.15	0
その他	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0
畑地化	0.00	0.00	8.82	0.00	8.82	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	前年度(実績)	目標値
				(令和4年度)	(令和5年度)
1	重点品目	振興作物推進助成(重点品目)	市の重点品目の作付面積	5.1ha	5.5ha
2	準振興作物	作物作付助成	市の準振興作物の作付面積	0.5ha	1.2ha
2	その他振興作物	作物作付助成	その他振興作物の作付面積	2.5ha	3.0ha
3	きゅうり、なす、ピーマン、いちご、ほうれんそう、さやいんげん、かぼちゃ、りんどう、小ぎく、りんご、ぶどう	【県推進メニュー】作付拡大助成(園芸品目)	作付拡大面積(単年度毎)	0.3ha	0.4ha
4	大豆	【県推進メニュー】作付拡大助成(大豆)	作付拡大面積(単年度毎) (直近3年)平均単収	3.2ha 130kg/10a	1.0ha 140kg/10a
5	大豆、飼料用米	担い手加算助成	大豆 取組面積 (直近3年)平均単収 飼料用米 取組面積 平均単収	24.6ha 130kg/10a 58.5ha 609kg/10a	25.0ha 140kg/10a 60.0ha 620kg/10a
6	飼料用米	【県推進メニュー】団地化加算助成	団地化面積(2ha) (定着度) 団地化面積(4ha) (定着度) 労働時間	45.9ha (78.1%) 26.1ha (44.4%) 6.1h/10a	48.0ha (80%) 30.0ha (50%) 5.5h/10a
7 (廃止)	飼料用米、米粉用米	複数年契約加算	飼料用米 複数年契約取組面積・数量 作付面積・数量 米粉用米 複数年契約取組面積・数量 作付面積・数量	33.8ha・206t 58.7ha・358t 0.9ha・4.2t 0.9ha・4.2t	廃止
7	そば	そば作付助成	作付面積	0.5ha	1.0ha
8	地力増進作物	地力増進作物作付助成	作付面積	0.0ha	2.0ha

必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：岩手県

協議会名：陸前高田市農業再生協議会

整理番号	用途 ¹	作期等 ²	単価 (円/1)0 a	対象作物 ³	取組要件等 ⁴
1	振興作物推進助成(重点品目)	1	40,000	トマト(加工用を除く)きゅうり、なす、ピーマン、いちご、ほねんそう、さやいんげん、かぼちゃ、りげう、小ぎく	作付面積に応じて支援
2	作物作付助成(準振興作物)	1	30,000	別紙1の通り	作付面積に応じて支援
2	作物作付助成(その他振興作物)	1	15,000	別紙1の通り	作付面積に応じて支援
3	作付拡大助成(野菜、花き)	1	10,000	トマト(加工用を除く)きゅうり、なす、ピーマン、いちご、ほねんそう、さやいんげん、かぼちゃ、りげう、小ぎく	作付拡大面積に応じて支援
3	作付拡大助成(果樹)	1	30,000	りんご、ぶどう	作付拡大面積に応じて支援
4	作付拡大助成(大豆)	1	5,000	大豆	作付拡大面積に応じて支援
5	担い手加算助成(大豆)	1	8,000	大豆	人・農地プランに記載された担い手による大豆の作付に助成
5	担い手加算助成(飼料用米)	1	4,000	飼料用米	人・農地プランに記載された担い手による飼料用米の作付に助成
6	団地化加算助成(2ha)	1	2,500	飼料用米	2ha以上の団地化がなされているものに対して助成
6	団地化加算助成(4ha)	1	5,000	飼料用米	4ha以上の団地化がなされているものに対して助成
7	【国追加枠】蕎麦作付助成	1	20,000	そば	排水対策等
8	地力増進作物作付助成	1	20,000	地力増進作物	作付面積に応じて支援

1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「 (二毛作 耕畜連携の場合は用途の名称に「 (耕畜連携) 記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「 (耕畜連携・二毛作記入してください。

2 「作期等」基幹作を対象とする用途は「1」、二毛対象とする用途は「2」、耕畜連携基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携毛作を対象とする用途は「4」記入してください。

3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙添付することも可能です。

4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件と取組要件等を記載して下さい。取組要件が複数ある場合には、代表的取組のみの記載でも構いません。

別紙 1

助成対象作物一覧

区分 1	区分 2	作物名	単価	備考
野菜	その他振興作物	すいか	15,000	
		メロン	15,000	
		れんこん	15,000	
		甘しょ	15,000	
		ゴーヤ	15,000	
		しょうが	15,000	
		うり	15,000	
		とうがらし	15,000	
		オクラ	15,000	
		セルリー	15,000	
		シソ	15,000	
		カリフラワー	15,000	
		コモチカンラン	15,000	
		こまつ菜	15,000	
		みょうが	15,000	
		しゅんぎく	15,000	
		みつば	15,000	
		せり	15,000	
		パセリ	15,000	
		にら	15,000	
		らっきょう	15,000	
		食用菊	15,000	
		かぶ	15,000	
		わさび	15,000	
		くわい	15,000	
		そらまめ	15,000	
		ぎょうじやこんにく	15,000	
	こしあぶら	15,000		
	みず	15,000		
	準振興作物	ズッキーニ	30,000	
		ブロッコリー	30,000	
		はくさい	30,000	
		レタス	30,000	
		だいこん	30,000	
		さといも	30,000	
		アビオス	30,000	
		スイートコーン	30,000	
		アスパラガス	30,000	
		さやえんどう	30,000	
		ヤーコン	30,000	
		ながいも	30,000	
		なばな	30,000	
		ごぼう	30,000	
うど		30,000		
たらめの芽		30,000		
ふき	30,000			
ぜんまい	30,000			
うるい	30,000			
しどけ	30,000			
のびる	30,000			
わらび	30,000			

区分 1	区分 2	作物名	単価	備考
花き	その他振興作物	輪ぎく	15,000	
		アスター	15,000	
		カーネーション	15,000	
		ばら	15,000	
		アルストロメリア	15,000	
		ガザニア	15,000	
		クリスマスローズ	15,000	
		サルビア	15,000	
		ジギタリス	15,000	
		シクラメン	15,000	
		デルフィニウム	15,000	
		パンジー	15,000	
		ビオラ	15,000	
		ペゴニア	15,000	
		ペチュニア	15,000	
		マーガレット	15,000	
		マリーゴールド	15,000	
		ラベンダー	15,000	
		ルピナス	15,000	
		ネモフィラ	15,000	
	日々草	15,000		
	対象作物の鉢もの	15,000		
	対象作物の花壇用苗もの	15,000		
	準振興作物	ストック	30,000	
		トルコギキョウ	30,000	
		スターチス	30,000	
		ゆり	30,000	
果樹	その他振興作物	りんご	15,000	1 2 (ゆず)
		日本なし	15,000	
		西洋なし	15,000	
		もも	15,000	
		うめ	15,000	
		びわ	15,000	
		かき	15,000	
		くり	15,000	
		いちじく	15,000	
		キウイフルーツ	15,000	
		くみ	15,000	
		ぶどう	15,000	
	おうとう	15,000		
ゆず	15,000			
準振興作物	ブルーベリー	30,000	2	
雑穀	準振興作物	あわ	30,000	
		ひえ	30,000	
		きび	30,000	
その他作物	その他振興作物	小豆	15,000	
	準振興作物	葉たばこ	30,000	
	準振興作物	ホップ	30,000	
		一筆に上記記載作物の複数栽培	15,000	

- 1 作付、植栽等から収穫までに年数を要する作物
- 2 小果樹

県推進メニュー助成対象作物一覧

対象作物
野菜（トマト（加工除を）きゅうり、なす、ピーマン、いちご、ほうれんそう、さやいんげん、かぼちゃ）
花き（いんどう、小ぎ）
果樹（いんご、ぶどう）

別紙 4 地力増進作物一覧

対象作物
ソルガム
エンバク
ライムギ
イタリアンライグラス
ヘアリーベッチ
レンゲ
クリムソンクローバ
アカクローバ
クロタリア
ヒマワリ
マリーゴールド
シロガラシ
ナタネ
カラシナ
ハゼリソウ